

## 第2回岡崎市特別職報酬等審議会会議録

- 1 日 時 令和7年12月9日（火）午後3時00分～午後4時50分
- 2 場 所 岡崎市役所西庁舎7階 702会議室
- 3 出席者 石橋豊委員、加藤大雅委員、加藤富子委員、北村史子委員、  
鶴田悦道委員、長坂秀志委員、中矢貴士委員、本田みさ江委員、  
山田泰一郎委員
- 4 欠席者 安藤幸次委員
- 5 事務局 出総務部長、松谷人事課長、保田人事課副課長、  
深谷人事課主任主査、高木人事課主査
- 6 議 題
  - (1) 資料説明並びに質疑応答
  - (2) 審議
  - (3) 次回以降の審議会の日程等について

### (1) 質疑応答

発言者	議 事 録
事務局	(追加資料の説明)
会長	前回と今回配布のあった資料で不明な点を整理したうえで、委員の皆さんの意見を伺いたい。
	不明な点や質問はあるか。
全委員	特になし

### (2) 審議

発言者	議 事 録
会長	報酬の方針について、委員の皆さんの意見を伺いたい。
委員	物価高や情勢を考えると上げにくいと考える。岡崎市は市民サービスを削っている。市長、副市長は他中核市と比較したときに高い水準のため据え置きでも良いかと考える。議員については特別職と比べ他中核市と比較したときの順位が低いため、特別職と同じ水準の順位相当まで引上げて良いのではないか。
委員	下げるか、据え置きか、上げるかと考えたときに、まず、下げる根拠は見つからない。では据え置きか引上げかを考え

	たときに、国家公務員や市職員は給与を上げているため、これらの上げ率を超えない範囲で上げて良いのではないかと考える。また、今までの経緯等を見ると上の役職と下の役職では下の役職の方が上げは手厚くするという考え方があって、それは踏襲した方が良く、特別職よりも議員の方が上げを大きくしても良いのではないかと考える。
委員	まず、市の財政状況としては上げとなったときに対応できるような財政状況であるかを確認したい。
事務局	人件費比率をみると、中核市の中では人件費が占める割合が高い一方、市民1人当たりの人件費に換算すると中核市の中でもそれほど高くない状況となっている。財政力指数をみると1.00のため、財政としては健全な状況と考えられるが、現在大型事業等が重なり支出が多いため、市民サービスに影響が出ている。
委員	市長・副市長については、中核市で比較したときに岡崎市よりも規模の大きい自治体と同じような水準になっているため、据え置きで良いと考える。議員については、上げ率についての具体的な結論は出ていないが、上げをしたい。
委員	このまま据え置きで良いと考えていたが、昨今の物価高は生活に影響が大きいので、少し上げた方が良くはないかと考える。最近では愛知県知事の報酬上げも決定していた。
委員	資料について確認をしたい。令和7年度予算における普通会計歳出総額が令和6年度決算に比べて約100億円増額している要因は何か。
事務局	歳出に伴って歳入も増加している。
委員	資料に財源の翌年度の繰越しと記載があるが、繰越しについては前年度から翌年度への繰越し以外に累積しているものもあるのか。
事務局	繰越しについては単年度のため、累積しているものはない。
委員	結論としては据え置きと考える。市民の実質賃金は上がっていないことを考慮すると、もう1年様子を見たい。今度の税制大綱も賃上げ税制を1回延長している。国際情勢等も考慮すると1年は様子を見ることが妥当と考え、特別職・議員

	ともに据え置きとしたい。
委員	特別職は据え置き、議員は引上げと考える。愛知県の産業の主要都市である岡崎市が中核市の中で平均よりも下回るのは市民としていかなものかと感じる。できれば他市の上げ幅の状況を見ながら、少なくとも今よりも順位が下がらない範囲で上げたい。順位をどの程度にしたいという明確なものがあるわけではないため、事前の調査等から落としどころを探っていきたい。
委員	特別職・議員ともに据え置きで良いと考えていたが、物価高を考慮すると議員のみ引上げでも良いのではないかと考える。
会長	初めは特別職・議員ともに引上げを考えていたが、中小・零細企業、全ての給与が上がっていない中で市民への影響を考慮すると据え置きが妥当と考えた。 しかし、皆さんの意見を聞くと、議員のみ引上げる意見が多い。岡崎市のことを考えていろいろなことをやっていただく必要があるため、モチベーションを上げてもらうためにも報酬を上げる必要は感じるが、世の中の厳しさを考えると、特別職は据え置き、議員は上げる方向で検討するのが良いのではないかと意見が変わった。
事務局	本日欠席の委員の方の意見を申し上げる。 「全ての職において引上げを提案する。ただし、金額については明確な数字は見いだせていない。理由としては2つあり、1つ目として春闘では令和6年、令和7年と2年連続して定期昇給込みで5%の賃上げを実現している。大手企業と中小・零細企業の格差はあるため考慮は必要だが、官民ともに給与・賃金を引上げていく流れを持続していく必要性はあると考える。2つ目として、全ての職において平成31年4月1日施行分から引上げられていないため、考慮すべきと考える。」
委員	大手企業と中小・零細の格差を実感している。それを踏まえると、特別職は据え置き、議員は引上げが良いのではないかと考える。
会長	まず議員については1名の委員が据え置き、それ以外の皆さんは引上げを考えている。何かご意見はあるか。

委員	情勢を考慮すると据え置きが妥当と考えたが、引上げすることについて必ずしも反対ということではない。
委員	ほとんどの人は特別職のような賃金をもらっていない。特別職は愛知県内でもトップクラスの給与水準のため据え置きが妥当と思われるが、議員については他中核市と比較したときに報酬が低いと感じる。プライドをもって職務に就いていると思うが、報酬が低いとその程度の仕事にみられていると感じてしまう。
会長	議員は上げる方向でよろしければ挙手をお願いしたい。
各委員	(挙手)
会長	議員は引上げる方向で、検討していく。 続いて市長・副市長については、欠席委員を含めて3名の委員が引上げ、それ以外の皆さんは据え置きと考えている。ご意見はあるか。
委員	資料を見ると令和4年に給与を引き下げられたまま変わっていない。愛知県などで引上げが決まった状況を考慮すると至少くらは上げた方が良くのではないかと考える。私の意見は変わらないが皆さんで決めたことであれば反対しない。
委員	過去の経緯を確認すると上がり幅は数千円で率としては1%に満たない程度の上がり幅となっている。しばらく引上げが行われていない状況のため、この程度であれば引き上げても良いのではないかと。
会長	市民の皆さんは少し上げる程度でも敏感な反応があるものなのか。
事務局	前回の議員報酬引上げの際も市民からご意見があったという話は聞いているが、当審議会は第三者機関の立場で根拠を示したうえで、答申を出していただければと考える。
委員	企業と労働組合の感覚だと、若年層、組合員、管理職の順に経営状況を見ながら徐々に上がっていくことで理解が得られていく。トップが最後に上がるという流れの方が受け入れやすいのではないかと考えると、今回は議員のみを引上げて市長・副市長はその後の動向を見ろという考えでも良いと思う。
委員	大衆迎合は良くないと思うが、引上げができるほどの理由

	も今はないように思われる。今の世情を考えると 1 年様子を見て、来年再度議論しても良いのではないか。
会長	1 年後に再度検討することもできるのか。
事務局	1 年据え置きとし、来年もう一度議論をして上げる状況を見据えたうえで、もう一度答申をするという答申をすることは過去にもあった。
委員	市長はリーダーシップが必要であり、他の職と同じとはならない。何かあれば辞めるという覚悟で職務にあたっていると思う。平成 28 年の審議会で決定した給与から変わっていないのはいかがなものか。
会長	その意見も理解できる。しかし我々はこの資料の比較から上がっているかどうか分かるが、市民の皆さんには分からない。微々たるものでも何故上がるのかという話になるのは良くないと思う。
委員	他中核市と比べて市長の水準は高い状況となっている。据え置きでも良いのではないか。
委員	市長は休日でも朝から夜まで会議等に出席をしている。引上げとしたいところではあるが、今回は据え置きでも良いと考える。
	資料を見ると、過去の上げ幅は数千円となっている。なぜこのような上げ幅なのか。
事務局	指定職の上げ幅を参考に行っている。直近 3 年間の指定職の上げ幅は 4.1%となっている。指定職とは国家公務員のトップの事務次官等のことで、それらの職に適用される給料表の引上げ幅を参考に行っている。
委員	過去に引き下げたときは財政が悪化したためトップからカットするべきとして引き下げを行った。現在も厳しい状況に変わらない。
委員	財政について厳しい状況というのは分かるが、何か根拠となるデータはないか。拠り所となる数値データが欲しい。余裕がないことが分かれば据え置きとするしかないと思う。
事務局	財政課に確認する。
委員	予算の中では人件費と扶助費が増加している。
委員	人件費と扶助費が増加して何かが実施できなくなる中で市長の給与が上がるとなると、給与を上げるために削ったの

	かと捉えられかねない。
委員	そのような話になると議員も上げるのは現状にそぐわないという話になる。
事務局	先ほど岡崎市は財政力指数が 1.00 のため悪い数字ではないとの説明をしたが、大型事業がかなり重なってしまい、財政調整基金も目減りしてしまっている。市民サービス等の支出を削る状況となっている。
委員	市民サービスを削っているという話だが、新規サービスではなく既存のサービスを削っているのか。
事務局	ご認識のとおり。 財政調整基金については市民一人当たりの金額に換算したときに県内でも低い状況となっている。
会長	財政の状況を考えると特別職・議員ともに据え置きが無難なのかもしれない。
委員	近隣の市町村は財政状況が比較的悪くない状況となっている。
委員	余力もなく市民サービスを削っているのに上げて良いのかと思う。
委員	市民の皆さんも財政状況の数値が分かっている中で議員の報酬を上げるとなると、議員もやりにくくなるのではないか。
会長	理由付けについても本日方向性を決めなければならないのか。
事務局	大まかな理由や方向性をいただければ事務局でまとめさせていただきます、答申の案としてお示しする。 (追加資料配布)
事務局	人件費については人事院勧告でかなり上がっている。他自治体も同じ状況でかなり負担になっていると考えられる。資料のとおり、財政調整基金はかなり減っている。
委員	財政調整基金というのは企業でいうところの内部留保や余剰金みたいなイメージか。
事務局	ご認識のとおり。
委員	単年度収支が 41 億円の赤字ということで、大変な状況であるということは理解した。次回はこのような資料を最初から用意していただきたい。

会長	この資料で理由としては十分と考える。特別職・議員ともに据え置きで異議はないか。 (拍手)
事務局	答申では、市長・副市長・議員を据置きとする。市の財政が赤字であることや財政調整基金が減っている状況を盛り込んで、答申書案を作成する。

(3) 次回以降の審議会の日程等について

発言者	議 事 録
事務局	第3回審議会を12月24日(水)の午後3時からの開催でお願いします。
会長	第2回審議会の閉会を宣言